

V. 議会報告会での質疑・意見、Q & A 要旨

●会場で出された質疑・意見、それに対する回答について、要旨をまとめ報告します。複数回にわたる質問はまとめていますのでご了承ください。

【常任委員会の報告に対する質疑・意見より】

Q 市議会だよりの一般会計予算の概要に、一人ひとりの児童生徒に応じた支援体制の充実とあり、不登校とか発達障害などの対応に予算を充実していると書かれてある。今年になって特別支援教育の支援員の数が減り困っているとの声もある。学校現場では特別支援教育のニーズが高まっているが、審査はどのように行われたのか。予算は増えたのか。

A 経済文教委員長…予算も人数も若干増えたと認識している。委員会の中では、理事者からの説明に基づき審査し了解した。要望どおりの中身にはなっていないのが現状かとも思う。

Q 市の市政方針市民会議では、市長は子育て・子育て環境の整備が4番目の優先施策とも言えるとしているが、議会の委員会の報告の中では、言葉すら出てこないということに疑問を感じる。収入が少ないから結婚できない、子どもをつくれないという現実がある。また、子育てしながら働きに出たくても職場がないという環境にある。こうした環境を考えて民意を吸い上げることが必要だ。議会ではどのように議論されているのか。

A 議会活性化検討委副委員長…議会では、(議会内の任意の協議組織として)子育て子育て検討会を設置し、子育て支援のために子ども条例の制定などを提言してきた。

A 福祉環境委員長…子どもを育てていく保育というのは大変重要な課題。保育園や病後児保育、児童手当、放課後子どもプランの子ども広場、地域子育て支援センター、ファミリーサポートセンターなどの充実に向けた議論をしてきている。

A 経済文教委員長…請願は不採択となったが最低賃金をあげるということも一つある。育児休暇を男性も含め取れる環境にしていくことも大切だ。放課後子どもプランでは、希望者全員が入れるように求めているが、市街地では小学3年生までが限界で、なかなか全員の希望が叶っていない。こうした点を議論してきている。

Q

新庁舎について。総合窓口支援システム等でワンストップサービスが可能とあるが、先進自治体では既に見直しが進んでいるようだ。議会の中ではどのように検討されたのか。「障害者等の窓口を第二庁舎にしたのは障害者団体の希望を反映したもの」とは事実誤認ではないか。新庁舎の1階に窓口がないから第二庁舎の1階を残すことになったもので、注意してもらいたい。

A

総務委員長…現在の計画では、本来のワンストップサービスが実現できない、合築の不便さは解消できないとする意見がある一方、検討している総合窓口支援システムにより対応できるとの意見もあり、全体としてそうした認識に立っている。障害者関係の窓口は、駐車場からの出入りができ利便性を確保できると理解している。

Q

二元代表制のもと、市議会が住民の声をくみ上げていくという点で、議会報告会はありがたい第一歩。重要な施策について、パブリックコメントが行われ市民の声は聴いていますよと言われても、本当に市民の生の声が伝わっているのか疑問に感じている。議会・議員が38万市民の心の内をくみ取り、住民自治協議会などと一緒に動いていくことを期待するが所見は。

A

議会活性化検討委副委員長…市民の皆さんの要望をしっかりと受け止め、政策形成能力を強めていくことが議会改革の基本であり、そのために議会基本条例を作ってきた。請願人に委員会の中で陳述してもらおうとか、特別委員会では直接市民との懇談を持つなどの取り組みを進めている。市民の意見を聴き政策をまとめ議会として決めていくということは、まだまだ不十分であるが、挑戦していきたいと考える。

A

コーディネーター…意見は非常に大事なこと。更なる研究課題と受け止めた。

Q

豊野学校給食センターを新しい第四学校給食センターに統合するのか、残すのかについて。センター方式がいいのか、自校方式がいいのか、といった議論になっているようだが、実際に給食を食べている子どもたちとかお母さんたちの意見はどのように反映されているのか。

A

経済文教委員長…豊野の子どもたちの意見が反映されたものとはなっていない。学校給食は第1～第3の三つのセンターが中心となっている。1万2千食を越えているセンターがある中、8千食位の国の考えに基づき、新しい学校給食センターを建設するという計画になっている。豊野地区の小中学生の意見や父兄の意見について、理事者側からの説明は受けていないのが実情だ。

Q

水道料金の改定について。議論のポイントとして水道事業の経営の健全化を図る必要があるとされているが、健全化の具体的な内容は何か。市民に丁寧な説明を求めたとされるが、市からはお手紙1枚がきただけ、水の需要が減り赤字になるから料金を引き上げるといったことなのか。平均7.86%の引き上げでも経営の健全化は無理ではないか、7.86%の根拠は何か。将来更に料金が上がる可能性があるのか。水道施設の縮小や人員の縮小などで改善するという考えはないのか。

A

建設企業委員長…水需要の減少と老朽管の更新の必要から、水道料金を引き上げざるを得ないというのが、理事者から提案された条例案で、3年に1回の見直しとなるもの。業務の効率化を図るなど、経営の健全化に向けた行政側の努力は必要である。将来的に更なる引き上げの可能性が全くないとは言えないが、そうならないように行政と議会が、それぞれ努力することが必要と考える。引き上げの理由等について市民に丁寧に説明するよう議会として強く要望してきたところである。

A

コーディネーター…水道局の説明不足があろうかと思う。議会側からもしっかりとした説明責任を要望していく。

【特別委員会の報告に対する質疑・意見より】

Q

市民会館と庁舎の建設費が134億円から151億円になった。新たに設立する文化芸術財団には、毎年3億円以上の市の補助金が必要と聞いているが、永久に3億円ぐらいの補助金が必要となるのか。

A

庁舎・市民会館調査検討特別委副委員長…建設費は、工区の分割や建設資材の高騰等によって増えるというのが当局からの説明だったが、151億円という建設費の見直しは様々な問題があり、より丁寧な説明が必要であると議論してきた。新しい市民会館の運営は、当初は3年間直営で行うとされたが、新たに財団法人を作り指定管理者に管理運営させるという方針転嫁があった。視察報告でも紹介したとおり、多くのところが自前のプログラムを作るなど自主事業で多くの収入を得て、市の負担を軽減するような試みがされているように、未来永ごとに市の持ち出し分が多くなるということではなく、自立した運営ということを要望している。今後、特別委員会としても意見提案していきたい。

Q

収支計算なくして建物を造るべきではない。市が補助するのであれば、赤字を埋め収支をあげる努力が必要だと思う。議員は政務調査費を残さず活用して、知恵を出し、市民が理解できるようにしてもらいたい。

A

コーディネーター…意見と受け止め、参考にしてしっかり研究する。

Q

まちづくりについて。長野市は善光寺を控えていながら、まちが寂れている。この原因を議会はどのように考えているのか。また、善光寺はJRよりもバスで来られる団体客が多いが、何故、善光寺の裏の駐車場なのか。中央通りを石畳みにしても歩く人がいないのではないか。他の文化財のある都市では、観光客が1キロも2キロも歩き、買い物もする。こうしたことをしっかり調査してまちづくりを考えてもらいたい。また、区画整理が進む長野駅東口のまちづくりについても、議会がどんな考え方で臨むのか、考えてもらいたい。

A

まちづくり対策特別委副委員長…寂れている原因は様々ある。活性化を図るために関係者が努力されてきているが、なかなか表に現れてきていないという捉え方をしている。善光寺の駐車場については、かねてから議論があるところ。昨年度、セントラル・スクエアに大型観光バス駐車の実験が試みられたが、成果が出るところにまで至っていない。また、市では、中央通りには公衆トイレが少ないこととか、どうすれば歩いてもらえるのかなどについてアンケート調査をしているところであり、意見を参考にしながら、特別委員会の後半の調査研究に活かしていきたい。

Q

松代では、バスの観光客が大変減り、団体グループの観光から小グループの観光へと転換している。認識を改める必要がある。まちづくりは「人が人を招く」という大原則をもっと大事にしてもらいたい。市民一人ひとりの力を信じてもらいたい。行政は、行政としての方向性を明確にするが、そこに住民の心というものが入っていない虚しさを感じている。市民が本気になって、市民会館をどうするのか、151億円かけて、どんな中身を造るのか。70億円かけるサッカー場をどのように盛り上げていくのか、行政だけでも議会だけでもなく、市民38万人が本気で考えるべき。市民がもつ素晴らしいいろんな考えを議会がうまくつないで、リーダーシップを発揮してもらいたい。

A

コーディネーター…全体的なまちづくり、長野市の将来の示唆をいただいた意見として、今後の活動に活かしていきたい。